



MARUBI

富士吉田市歴史民俗博物館だより

9

1997.9.30



富士吉田 あれこれ

吉田のうどん

富士吉田の名物といったらうどんです。そもそも、うどんは盆や正月、祭りなどの年中行事や人生儀礼など様々なお祝いを含む、普段の日とは違う「晴れの日」の食べ物でした。(うどんについての詳細は博物館だよりNo.6「雑穀と食生活」をご覧ください)

晴れの日のお祝い食べ物で10年ほど前までは吉田の名物とは言えなかったうどんが、今では市外からもわざわざ食べに来るほど有名になった理由はよくわかりませんが、とにかく市内のあちこちでうどん屋さんが営業をされており、毎日大勢のお客さんと賑わっています。

近年では吉田のうどんを大々的にPRしており、それぞれのうどん屋さんの味や特徴的なメニューを紹介していますが、実際に食べに行くとPR内容とまったく異なっていたりして、「ここは案外うまいな」とか、「ハズレだな」といった感想が聞かれます。

味覚は個人差があるので必ずしも自分にあった味とは限りません。地元の常連は何軒か食べ歩き、自分にあったうどんを知っているのです。その上、二日酔いの時などは「さっ

ぱりしたお漬物が出るあそこに行こう」とか、「気持ち悪いからやわらかいうどんがいいな」などと自分の体調にあわせてうどん屋さんを決めます。また腹がすごく減っている時などは「今日は固くてコクのあるうどん屋」を選ぶ人もいます。コクとは味のコクではなく「石」のことで、小麦粉の密度が多く量があるうどんのことをいいます。腹一杯になると「こりやあゲエ(またはガイ)だった」と水を飲み干します。ゲエとは多いという意味で、数字の単位である「垓」がなまったものともいわれていますが定かではありません。

吉田のうどんには様々な特徴があり、特に辛い薬味にラーユを使用する店が多く、東京の人は「うどんにラーユ?」と驚きますが、慣れると病みつきになります。お手ごろ価格で腹一杯食べられるので、毎日毎日毎日食べている人も少なくありません。未経験者は挑戦してみたいかと思いますが、ただし、店によっては「玉が切れる」(売り切れる)場合があるため、皆さん早め(10時11時)に食べに行きますので、ご注意ください。

▼博物館レポート

富士吉田の遺跡

はじめに

富士吉田市は山梨県の南東部に位置しており、南に富士山、北部に御坂山地、北東部を道志山地に囲まれた、富士山裾野に広がる扇状地状の地形に広がっています。市街地は標高700m~900mのところであり、豊かな自然に恵まれているものの山がちな地形で気候も冷涼なため、農業生産にとって必ずしも有利な土地柄とはいえませんでした。そのため、この地域では農業を補う生産手段として古来より機織りが行われ、織物製造は後に市の基幹産業として発展していきました。また、当市は富士山信仰の受け入れの街として江戸時代

以降、多くの登山者で賑わった歴史があります。

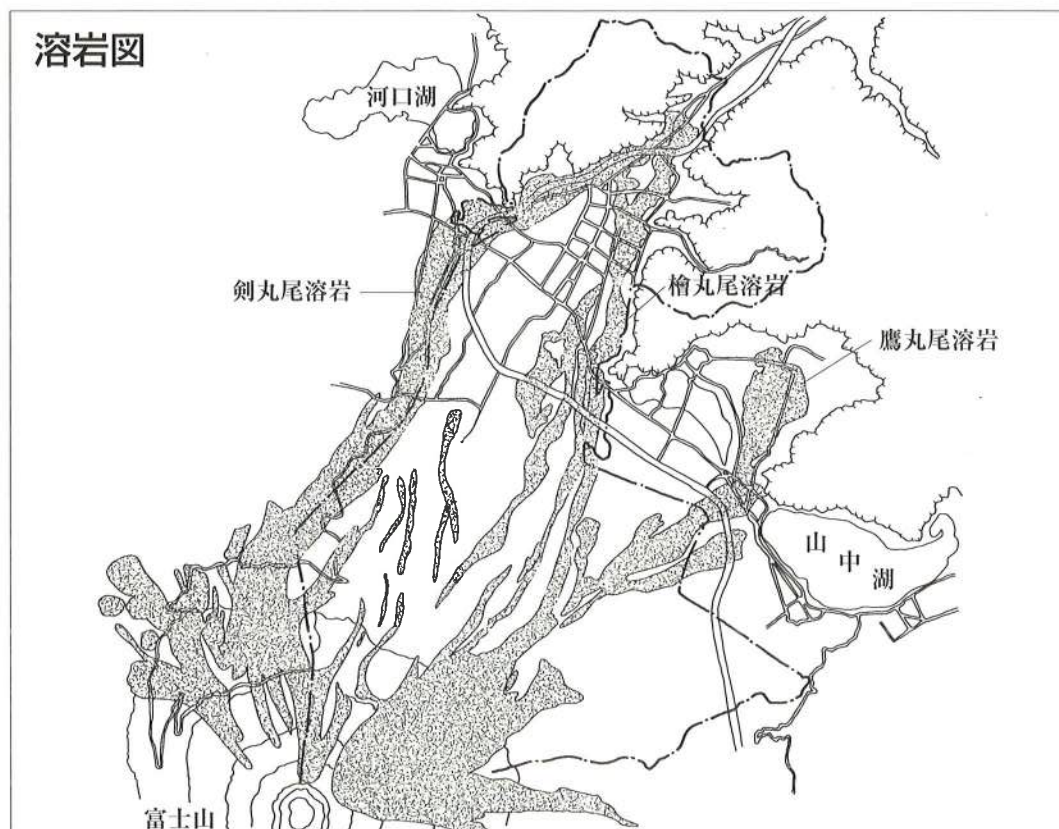
このように富士吉田市を紹介する際に、織物産業や富士山信仰を取り上げる機会が多いのですが、それ以前の歴史、特に縄文から平安といった時代ではまだまだ不明な点が多く、これまであまり取り上げられませんでした。今回は原始古代にさかのぼって市内に点在する遺跡を紹介しながら市の歴史を概説します。少ないデータではありますが、当地が富士山の影響を受けてきた街であることが確認できるものと考えます。

溶岩流のひろがり

富士吉田市は富士山の火山活動の影響を直接的に被ってきた地域といえます。市域一帯には厚く堆積した火山灰と幾流もの溶岩が流れ下っており、絶えず人々の生活に影響を与え続けてきました。ここでは市域を流下した溶岩流のうち、代表的なものを幾つか紹介します。

縄文時代初頭、今から約8,000年前に流下した猿橋溶岩は市域の西側を流れ、大月の猿橋まで流れ下ったとされ、かなり大規模な火山活動によるものであったことが窺えます。歴史時代の溶岩流では檜丸尾第2溶岩(800年~802年)が市域の東側、桂川沿いに流れていま

溶岩図



▼博物館レポート～富士吉田の遺跡

す。（当館はこの溶岩台地上に建てられています。）この檜丸尾溶岩下からは古墳時代の土器が何点か出土しており、遺跡（堰林遺跡）として登録されています。同時期に流れたとされる鷹丸尾溶岩は忍野・山中湖方面に流下しています。この溶岩によって付近一帯にあった大きな湖が分断され、山中湖が形成されたものと考えられています。しかし、近年この溶岩の下から一つの鏡が発見されました。この鏡は「松鶴鏡」と呼ばれるもので12世紀中頃から後半にかけての所産とされています。この溶岩下より出土した鏡の年代を考えると、鷹丸尾溶岩の噴出年代が12世紀後半以降ということになり、溶岩そのものの年代とそれに関わる山中湖の形成という問題について再度検討していかなければならない課題となっています。

市域の西側には剣丸尾溶岩と呼ばれる大きな溶岩流が流れ下っています。この溶岩流は、承平7年（937）の噴火によるものと考えられています。江戸時代にはこの溶岩台地の開発のため、山一つ隔てた河口湖の水を引く大トンネル工事が行われました（新倉掘抜：博物館だよりNo.5参照）。この溶岩の下からも平安時代の遺物が発見されています。

一般に遺跡とは地下に埋もれている文化財、いわゆる埋蔵文化財のことで、その当時暮らしていた人々の生活の痕跡が遺跡というかたちで後世に残されるわけです。市域の遺跡は厚く堆積した火山灰や溶岩で覆われているため発見しにくい反面、後世の営みに壊されることが少なく、良好な状態で残されていると考えられます。

教育委員会では、これまで2度に渡って分布調査を実施した成果として、現在までのところ47の遺跡が確認されています。見つかった遺跡のほとんどは、本格的な発掘調査が行われていないため資料的にも未だ十分とはいえません。また、遺構や遺物が見つかる土層までかなり深いことから、確認されていない遺跡がまだ数多く存在すると考えられるため、現在確認されている遺跡数も今後、増える可能性が大いにあります。



【檜丸尾第2溶岩（博物館エリア内）】



【剣丸尾溶岩の断面（市内松山の石切場）】

それでは富士吉田市において遺跡は一体どのような場所にあるのでしょうか。御坂・道志両山地の山体を開析する樹枝状の谷から多くの支流が市内の東側を流れる桂川に流れ込んでいます。また、市内の各所では湧水も多く見られます。遺跡は主にこれら両山地の山麓緩斜面や河川に沿う狭い台地上に点在しています。

現在確認されている遺跡のなかでは縄文時代の遺跡が47遺跡のうち18遺跡を数え、ついで平安時代の遺跡が多く見られます。このことは冒頭で触れたように火山灰質の痩せた土地では農業生産にとって不利といえますが、見方を変えてみますと、狩猟採集を生活の基盤としていた縄文時代の人々にとって周囲を山に囲まれた水豊かなこの地域は逆にとても住みやすかったのではないのでしょうか。

しかしながら、各遺跡が営まれた時期を見

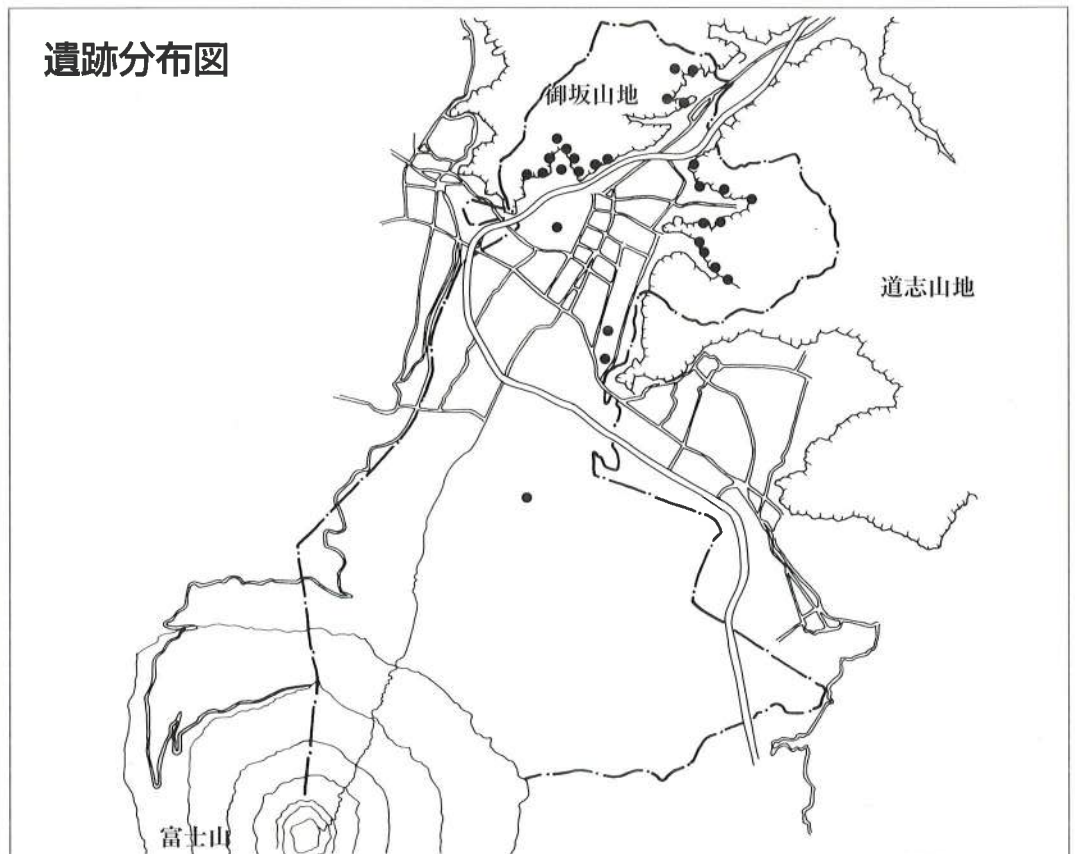
遺跡の分布

▼博物館レポート～富士吉田の遺跡

てみますとかなり断続的で、絶えず人がこの土地に住み続けていたわけではないようです。富士山が噴火を繰り返す活動が活発な時期においては、遺跡がほとんど見られないことから生活の舞台として適していなかったと考えられます。このように当時の人々の生活は富士山の火山活動に大きく左右されていたのではないかと考えられます。具体的に遺跡が形成された時期を見てみますと特に縄文時代に

おいては富士山の静穏期、いわゆる富士黒色土層の堆積した早期の時期に遺跡が見られ、早期後半の集落が古屋敷遺跡の発掘調査より確認されています。早期に続いて住居などの明確な遺構が確認されるのは後期になってからで、前期や中期といった時期では部分的な遺構や遺物が見つまっているものの集落跡などは現在までのところ見つかっていません。

遺跡分布図



古屋敷遺跡 と 池之元遺跡

富士吉田市における代表的な遺跡として御坂山地側に位置する池之元遺跡と道志山地側の古屋敷遺跡があげられます。この2遺跡は、縄文時代より平安時代まで続く複合遺跡で市内でも規模の大きなものです。

池之元遺跡は多くの遺跡が見られる新倉地区、海拔約820mの舌状台地に立地しており、台地の下には数カ所の湧水があります。市内においても日照条件や眺望など環境条件の良いところにあります。この池之元遺跡からは縄文・平安時代の住居が見つかっています。

縄文時代では早期と後期の時期に集落が確認されています。早期の住居からは地床炉が確認され、覆土から表裏縄文・縄文・捺糸文を主体として押型文土器が出土しました。縄文後期では、湯船第1スコリアと呼ばれる層の直下から2軒の住居が見つかりました。そのなかでも1号住居は敷石住居で、入り口部分が突き出た柄鏡の形をしており、床には石が敷かれています。この敷石住居からは土器などの遺物の他に多量の炭化材が出土しており、火災にあった家と考えられています。この敷石住居

▼博物館レポート～富士吉田の遺跡

は富士山に最も近い場所での検出例として貴重な資料といえます。

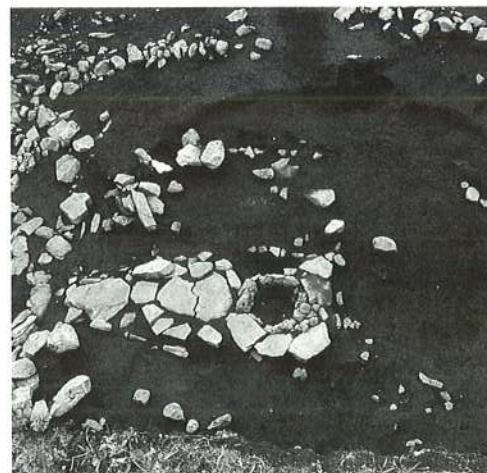
古屋敷遺跡は大明見地区の通称「背戸山」と呼ばれる尾根の南縁部にあたる舌状台地に立地しています。遺跡付近に古くは湧水があり、また、遺跡の前面は湿地帯になっており、アシ原や湿田が点在しています。遺跡の位置する大明見地区は縄文時代より中近世に至るまでの遺跡が多く分布しているところで、そのなかでも古屋敷遺跡はこの地区の中心的な遺跡であるといえます。遺跡の立地する台地は雛壇伏に傾斜しています。これは古屋敷という字名が示すように中近世には村落が展開していた土地で、雛壇伏の地形は村落開発による造成の結果と考えられます。古屋敷遺跡は小さな谷状の地形を隔てて調査の場所からA・Bの二つの地点に分けられています。この遺跡で特徴的なのはA地点において縄文時代早期後半の遺構が多く確認されたことです。6軒もの住居が重なり合って検出され、土器片も多量に出土しました。B地点においては主に平安時代の住居や土坑などの遺構が見つかり、土師器や鎌、刀子などの鉄製品が遺物として出土しています。

池之元遺跡・古屋敷遺跡の発掘調査は部分的なものであって、遺跡の全容を知るには至っていません。今後の調査による資料の蓄積が待たれます。

富士山はその山容の美しさから世界の名山に数えられ、日本のシンボルともなっていますが、古来より火を噴く恐ろしい山として恐れられ、一方神秘的な山として崇められ、人々の生活に絶えず影響を与え続けてきました。

〈参考文献〉

- 富士吉田市教育委員会『富士吉田の遺跡』1981
 富士吉田市教育委員会『古屋敷遺跡』1983富士吉田の文化財（その19）
 末木健『富士吉田市内遺跡分布調査報告』1987富士吉田市史研究2号
 上杉陽『富士火山東方地域のテフラ標準柱状図』1990関東の四紀16
 富士吉田市教育委員会『古屋敷遺跡発掘調査報告書』1990富士吉田市史資料叢書8
 榎原功一『山中湖村北島遺跡出土の「松鶴鏡・ガラス玉」』1995富士吉田市史研究10号



【池之元遺跡】



【古屋敷遺跡】

今回のレポートでは市の遺跡について富士山の火山活動による影響を交えて簡単に紹介してきましたが、まだまだ不明な部分が多いのが現状です。今後も様々な側面から調査研究を重ねていくことが課題と考えます。

おわりに

▼活動報告

企画展・博物館講座

企画展

●江戸時代の富士登山
～「富士山明細図」から

7月1日（火）～8月27日（水）

江戸時代末期の富士登山道（主に吉田口）の風景を筆写した「富士山明細図」を写真パネルでご覧いただき、そこに描かれている登山や山内信仰地の様子を古文書などの補助資料を用いて紹介しました。

江戸時代の富士登山道の様子をまとめて描いたものは他に嘉永元年（1848）の「富士山真景之図」（長島泰行筆）がありますが、これは着彩されておらず、登山者や登山道の信仰施設の細部の様子については、着彩されている富士山明細図にたよらなければならない部分が多くあります。

現在、歴史の道である富士山吉田口登山道の整備計画が進められ、登山道の発掘調査が行われていますが、富士山明細図はこの調査の手助けをする唯一の資料であるとともに、富士信仰を研究する重要な資料でもあります。この資料を多くの方々にご覧いただくことができましたが、これは所蔵者である本庄氏の快いご協力とご理解によるものです。厚く感謝申し上げる次第です。

企画展図録「富士山明細図」は博物館受付で販売しています。（定価1,000円）

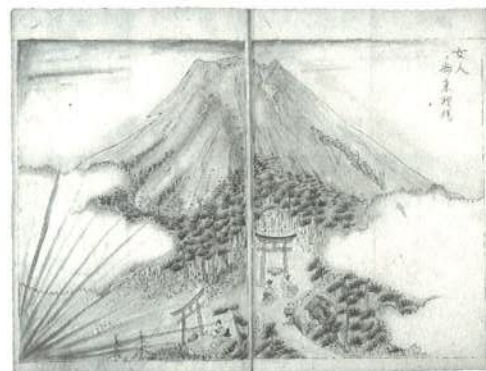
●市内の遺跡展・縄文土器作り教室作品展

9月2日（火）～9月30日（火）

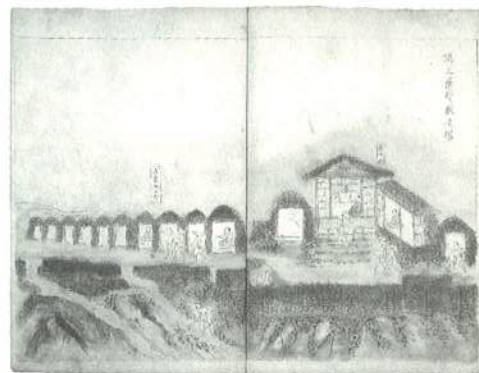
常設展で紹介している市内の原始・古代展示をさらに詳細に紹介し、加えて新たに収蔵された考古関係資料を展示しました。

常設展ではスペースの関係上、ほんの一部の展示で紹介していますが、今回の企画展では市内の二大遺跡である古屋敷遺跡（大明見）及び池之元遺跡（新倉）を中心として、縄文時代から弥生・平安時代までの専門的な考古データも理解しやすいグラフィックパネルで解説しました。とかく難解と思われがちな考古学にも興味をもっていただけたのではないのでしょうか。また、今回は8月に開催された「縄文土器作り教室」で作成した参加者の力作33点を展示しました。自分の作った作品が展示され、よい思い出になったことでしょう。

富士吉田市内には多くの遺跡が確認されて



【女人御来迎場】



【頂上薬師ヶ岳役場】

いますが、厚い溶岩流の下にまだまだ発見されていない遺跡が残されていると考えられます。市内の遺跡は本格的な調査があまり行われていないため、今のところその全容を知ることはできません。今回の企画展は現時点での中間報告として開催したことをご理解ください。



博物館講座

●歴史散歩講座

「富士山裾野の史跡を訪ねよう」

6月15日（日）

吉田口登山道の裾野周辺には富士山信仰に関係する史跡や自然がもたらした文化遺産が多く残されています。今回の講座では、私たちの歴史を育んできた富士山裾野の史跡を訪れ、富士吉田の歴史や民俗を学ぶことによって、郷土の貴重な史跡等文化遺産を守り後世に伝えなければならない義務と責任を参加者に認識していただくために開催しました。

コースは博物館を出発して、北富士演習場内を通って雁ノ穴、泉水、中ノ茶屋（昼食）、吉田胎内、船津胎内までの約8kmの道のりで、雁ノ穴では竪穴の深さに感動し、泉水では冷たい水を一気に飲み干す姿もみられました。また、中ノ茶屋では茶屋でソバを注文する人や、家族で楽しくお弁当を食べている風景も見られました。当日は歴史散歩に最適な天気で、40名の参加者は心地よい初夏の風を感じながら歩いてました。



歴史散歩の定員は安全面を考慮して職員が対応できる30名としています。今回は申込みが多数であったため、急きょ職員を増員し定員を40名に変更しましたが、それでも定員に達してしまいました。お断りしました方には申し訳ありませんでした。次回からはより多くの市民の方々に参加していただけるよう努力していきます。

●体験学習

「縄文土器作り教室」

8月3日（日）・10日（日）・24日（日）

この教室は縄文土器を作ることによって縄文人の生活や技術を学ぶことを目的とし、あわせて考古学の世界を身近に感じていただけるよう毎年開催しているものです。

8月3日は土器を作る粘土を水と砂を混ぜて練る作業を行いました。作業は結構力が必要で、こどもの部では皆さん苦労していました。この粘土は都留市の中谷遺跡付近から採取したもので、縄文時代と同じ行程で何日も乾燥させ細かく砕いた貴重なものです。

10日は粘土紐を積み重ねながら土器の形を作って文様をつける作業でしたが、思うようにできず、モデルの土器とはまったく違うものを作ってしまった人もいました。しかし、全員なんとか完成し、2週間ほど乾燥させた後の24日にたき火のなかで焼きました。火の中に土器を入れると、たちまち赤々と熱せられ、約30分ほどで焼きあがった自分の土器に感激の様子でした。作品33点は企画展「市内の遺跡展」とともに展示しました。



【文様付け作業】



【焼き上げ】

メモ

博物館では教育普及活動として毎年二つの講座を開催しています。一つは歴史散歩講座で、富士吉田の歴史民俗に関する場所を歩きながら学習するもので、コースは市内だけに限らず、関連する場所や地域もフィールドに入れています。もう一つは体験学習で、実際に自分で体験することによって学ぼうという講座です。現在は主に縄文土器作り教室を開催しています。

▼Information

博物館からのお知らせ

博物館
の
楽しみ方

昭和54年に開館した郷土館が増改築及び展示改装を行い、博物館として再スタートしたのは平成5年。はや5年目にはいり、この間、何度となくご来館いただいた方も多いと思いますが、一般には一度見た展示は二度見る必要はない、と思われがちです。博物館では歴史民俗をテーマにした企画展を計画にそって開催していますのでよろしくお願いします。

しかし、博物館は展示を見学するだけでなく、自然観察室や学習室、また博物館エリアも活用できるのです。エリア内には散策道もあれば休憩するテーブルとイスも用意されています。晴れた休日に松丸尾溶岩の上を歩きながら自然を観察し、民家では江戸の村

の雰囲気味わっていただき、お昼は芝が広がるまほろばの庭でお弁当を食べながら一日のんびりするのも博物館の楽しみ方でしょう。



【まほろばの庭】

その他の
お知らせ

●平成6年～8年の新収蔵資料展を開催

3年間に受入した博物館資料の一部を展示し、あわせて資料収集、調査研究活動といった博物館活動の側面を紹介します。期間は10月18日（土）から12月14日（日）まで。

●博物館実習

当館では毎年学芸員になろうという意欲ある実習生を受け入れています。本年度は3名

の実習生を受け入れ、8月15日から28日までの二週間実習しました。立派な学芸員をめざして頑張ってください。

●資料寄贈のお願い「おもちゃ」

博物館ではこどもの玩具を収集しています。メンコ・おはじき、何でもかまいませんので、ご連絡ください。（物によってはお断りする場合があります）

編集後記

博物館が開館して以来、この博物館だよりを編集してきた謎の人物（FU）が、富士登山道調査等で多忙となり（文化振興課を兼務）、泣き付いてきたためピンチヒッターとなりました。しかし、そんな私も忙しく、常設展示を自分たちの手で一部変更しようとトンカチ片手に展示台・演示具等の作成に追われる

毎日です。一方、プライベートでは本年5月に豪邸？が完成したため、棚造りや庭の手入れなど日曜大工（正式には夜中の大工）に变身しています。（FU）が富士山中で調査漬けの毎日から富士山の熊と化すと同時に、博物館と家で大工見習いをしている私は、棟梁学芸員（大工部門）と化すでしょう。（ま）

ご案内

開館時間 午前9:30～午後5:00（入館は午後4:30まで）

休館日 月曜日（祝日を除く）
祝日の翌日（日曜・祝日を除く）
12月28日～翌1月3日

観覧料 大 人 300円(240円)
小中高生 150円(120円)
()内は20名以上の団体料金

交通案内 ●中央自動車道河口湖ICより車で10分。
●富士急行線富士吉田駅より山中湖方面バス15分、サンパークふじ下車。



メモ

タイトルの「MARUBI」は富士山から流れ出た溶岩台地帯を指すこの地方のことば「丸尾」からとったもので、丸尾とは溶岩が流れる様子の「転び」が転化（変化）したものとされています。

富士吉田市歴史民俗博物館
FUJIYOSHIDA MUSEUM OF LOCAL HISTORY

〒403 山梨県富士吉田市上吉田2288-1
☎ 0555-24-2411 FAX 0555-24-4665
2288-1 KAMIYOSHIDA, FUJIYOSHIDA-SHI, YAMANASHI-KEN 〒403
富士吉田市 ホームページ URL
http://www.ctiy.fujiyoshida.yamanashi.jp/rekishi/rekishi.html

発行 平成9年9月30日